

能楽ワークショップ



日本の伝統芸能「能楽」に親しむワークショップを開催します。



はじめての能楽のうがく〜土蜘蛛つちぐも〜

解説 能のうってなあに？
能のう「王蜘蛛」を観みてみよう
体験 能楽のうがくワークショップ

日時 令和6年8月17日(土) 10:30開始
12:00終了

会場 鎌倉能舞台

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷 3-5-13
交通アクセス：JR鎌倉駅よりバスにて15分「長谷観音前」
または江ノ電「長谷」駅下車徒歩約7分

- 定員 / 120名 (神奈川県内の小・中学生とその保護者。小・中学生のみの参加も可)
- 参加費 / 1人1,000円
- 講師 / 中森貴太 (観世流シテ方、重要無形文化財総合指定保持者) 他
- 申込締切 / 令和6年7月21日(日) 応募者多数の場合は抽選
- 申込方法 / 下記の県ホームページ内の申込フォーム
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yj4/nougaku.html>



■問合せ先：神奈川県文化課文化事業グループ TEL.045-210-3808
◆主催：神奈川県、公益財団法人鎌倉能舞台

能楽ワークショップ

番組

はじめての能楽 土蜘蛛

二〇二四年八月十七日(土)

●開始：十時三十分 ●於：鎌倉能舞台

解説

能^{のう}ってなあに？

能の基本的な歴史などを簡単にお話

(十五分)

能

「土蜘蛛」を観てみよう

【字幕解説付き】(二十分)

土蜘蛛ノ精 中森健之介

半能
土蜘蛛

独武者 野口 能弘
大鼓 佃 良太郎 太鼓 姥浦 理沙
小鼓 飯富 孔明 笛 熊本俊太郎

従者 野口 琢弘

後見
佐久間 二郎
永島 充

地謡
久保田 宏一
鈴木 啓吾
中森 貫太
桑田 貴志

体験

能楽ワークショップ (二十分)

謡ってみよう 土蜘蛛の一部を謡ってみよう

歩いてみよう 能の基本的な立ち方「構え」や

歩き方を学ぼう

質問コーナー

気になった事は何でも聞いて帰ろう

(十分)

「全ての子どもに能・狂言鑑賞の場を」

日本の「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として2001年に宣言され初指定された、ユネスコの世界無形文化遺産です。しかし、どれだけ日本人が能・狂言を見たことがあるのでしょうか？ これからの日本を作っていく子供たちに、能・狂言を見て貰い、自国の伝統芸能に対する造詣を深めて欲しい。そう鎌倉能舞台は考えます。

主な出演者紹介



中森貫太 (なかもり かんた)

1961年生。観世流能楽師シテ方。東京芸術大学卒。重要無形文化財総合保持者。故父 中森晶三、三世 観世喜之師に師事。公益財団法人鎌倉能舞台業務理事、公益社団法人観世九阜会会員。慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部講師。鎌倉能舞台主催公演の他、薪能、市民能、学生を対象とした能楽教室等、能の普及啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。

能とは

能は今から約六百年前、室町初期に観阿弥世阿弥という父子の天才によって大成された。現存世界最古の演劇です。しかも江戸時代の支配階級である武家の式楽として大切に保護・熟成され、主要な演出法・台本・装束道具類もほとんど草創当時のままに正確に、しかも恵まれた環境のなかで磨き抜かれ、深められて今日に伝えられている。非常に貴重な文化財です。

その特徴とする諸点は実に多く、簡単に説明は出来ませんが、主な点を挙げてみると、

- ①舞台：幕がなく、見物席に大きく張り出した本舞台と、楽屋との通路であるとともに第二舞台としての役割もする橋懸を持つ特殊なもの。
- ②演出：純然たる劇というよりも、「語り物」としての色彩を強く残し、又一面舞踊劇・音楽劇の要素も強い。色々な約束ことも多いため、かなりの予備知識を必要とする。
- ③謡曲：能のセリフと歌を謡曲と云い、日本語としてもっとも完成された発声法と独特な音階を持つ。中世の日本語をほとんど正確に伝えていると考えられ、発音・用法、文法などを調べる上に貴重な資料となっている。
- ④能面：能の主役(シテ)は原則として仮面をつける。これは素顔ではとても表現できない強さ・怒り・美しさ・気高さを的確に現わせるために、ほかのあらゆる不便をしのいで使用している。

鎌倉能舞台

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷3-5-13
TEL/FAX.0467-22-5557

鎌倉能舞台



【交通】JR 鎌倉駅よりバスにて15分「長谷観音前」または江ノ電「長谷」駅下車徒歩7分